

風土記の丘の花だより¹³²

今、そしてこれから見られる植物(2022年4月30日)

まさに「山笑う」、シイの花が盛り上がるように咲き、辺りに独特の香りが漂う季節になりました。この時期はどの花を紹介しようかと、大いに迷います。次から次へと花が咲き、この紙面では十分に紹介できないもどかしさを感じています。この写真の他にも季節の花をいっぱい探してください。アヤメが咲いています。花びらの中に網



目模様があるのがアヤメで、もう少し後に咲くカキツバタにはそれがありません。この写真は小早川家で撮ったものですが、谷山家でも万葉植物園でも見ることができます。今では遊ぶ人も少なくなりましたが、花札の5月はアヤメです。でも、あのアヤメは水辺に生えています。どうやら、カキツバタのようです。後世に残したいカード文化ですね。



アマドコロが白くて小さな花をつけています。ぶら下がった様子から、ナルコユリと思われている方もおられますが、確かに両者はよく似ています。アマドコロの茎はカクカクしていますが、ナルコユリは角張っていません。また、花はナルコユリの方がたくさん付きます。まあ、「どっちゃでもエエ」ような事ですが、知っているとなかに話したくなりますね。



堅穴住居や安藤塚などにミヤコグサの黄色い花が咲いています。別名をヒヨコグサと言いますが、黄色くて丸っこくて、小さくて、確かにその名前もうなづけます。マメ科の植物ですので、豆ができます。熟したさやは、天気の良い日にねじれるようにはじけて、中の豆を勢いよく飛ばします。



ヒトリシズカの花はとっくに終わっていますが、万葉植物園で今、フタリシズカの花が咲いています。誰が名付けたのか実に面白い名前ですね。花が2本立っているので「フタリ」ですが、中には三人や一人の花もあります。これをご覧になる頃には、同じところでマユミの花が咲いていることでしょう。 松下